

地震による各種分布

～地震の影響を知ろう～

南海トラフ巨大地震の被害を想定し、各種分布図を作成しました。震度については、市南部での『6強』が目を見せます。また、市南部では液状化の可能性の高い場所が多くなっています。

■液状化、構造物倒壊の中での避難

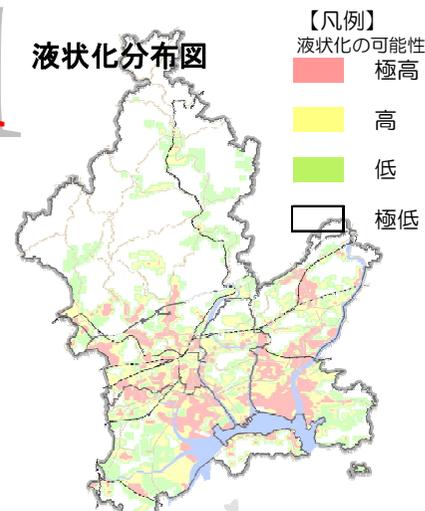
地震による道路のひび割れ、ブロック塀の倒壊などに加え、地表がぬかるみ、マンホールなどが突起している可能性があるため、足下に注意して避難します。人の体重では、足はとられても、地面に入り込むようなことはありません。落下物、余震への警戒も重要です。

■液状化しやすい地形

自然地形では湾岸、三角州、河口、旧河道、河川沿い、扇状地末端、自然堤防縁辺など人工地盤では、浚渫による埋立地、谷地形の盛土地、道路・鉄道・砂による堤防盛土地など

1

液状化分布図



液状化の可能性が高い軟弱地盤は、その場所の『揺れ方』により、被害の様相が違ってきます。地域によっては長時間の『横揺れ』が継続し、辺りの地域より激しい被害になることがあります。

■液状化のしくみ

平野の地盤（特に砂地盤）で地下水位の高い場所などが、地震による振動を繰り返し受けると、今まで安定していた結束が弱まります。

そうすると、今まで受けていた下に向かってかかる重さを土粒子で分担できなくなり、その分が地下水に作用して地下水圧が上がり、地下水は地盤のわずかな隙間や弱い部分を伝わって細かい土粒子と一緒に地上に吹き出します。

■液状化の被害

比重の大きい構造物が埋もれ、下水管等の比重の軽い構造物が浮き上がります。家の傾きにより、居住できなくなる場合もあります。

2

震度分布図



震源域が広がると、大きな揺れが連続で襲ってくる場合があります。揺れがある程度収まり、避難を開始した時も”激しく揺れる”可能性があります。

岡山市の耐震診断・改修の助成を知っていますか？

- ・ 木造住宅耐震診断補助制度
- ・ 木造住宅耐震改修補助制度
- ・ 戸建て住宅耐震診断等補助制度
- ・ 建築物耐震診断等補助制度

【凡例】

- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱



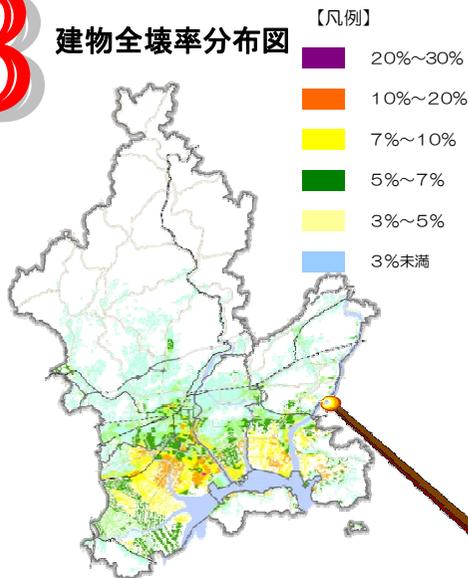
東日本大震災以前の南海トラフ地震想定では、岡山市の最高震度は5強でしたので、さらなる注意が必要です。

●地震の揺れと想定される被害

震度	はわないと動けない。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものも多数。耐震性の高い木造家屋でも壁に亀裂が。
6強	
震度	立っていることが困難。耐震性の低い木造家屋で倒壊するものがある。
6弱	
震度	ものにつかまらなると歩行困難、固定していない家具が倒れることがあり、車の運転も困難。
5強	

3

建物全壊率分布図



※この3つの分布図を『液状化マップ』『ゆれやすさマップ』『地震危険度マップ』として危機管理課等で提供しています。

地区の詳細な状況は岡山市地図情報で



全壊率が高いと、道路などが通行できない率も高まり、複数の避難経路を考慮しておく必要があります。火災の延焼の広がりにも注意が必要です。



たとえば全壊率20%とは、メッシュの中に5戸の住宅がある場合、1戸が全壊、4戸が半壊もしくは小破・無被害と予想されていることを示しています。